河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた
取組の実効性向上に関する検討会

開催趣旨

近年、国際社会においてはネイチャーポジティブの潮流が急速に広がっており、河川およびその周辺における生物多様性の保全・向上は、生物多様性国家戦略にも位置づけられている重要施策である。河川は多様な生物が生息する場であるだけでなく、森林、湖沼、湿地等を含め、さまざまな生態系を連結する基幹的なネットワークとして、国土全体の生態系を支える重要な役割を果たしている。

国土交通省においては、多自然川づくりの取組に加え、これまで関係機関と連携しながら、「流域治水×グリーンインフラ」の取組を進めるとともに、生態系ネットワーク協議会の設置・運営などを通じて、生物の生息環境の保全・創出や魅力ある地域づくり等を推進してきたところ。

近年では、河川環境の定量的な評価手法についても進展が見られ、河川整備計画に河川環境に関する定量的な目標が位置づけられるとともに、河川水辺の国勢調査へ環境DNA の活用も導入されるなど、データの蓄積と利活用が進んでいる。このような状況を背景に、生態系ネットワークをより分析的に評価する機運が高まっているところである。

さらに、令和 8 年 1 月にグリーンインフラ推進戦略 2030 が策定され、自然の多様な機能を活用し、生物多様性の確保のみならず、地域経済の活性化や防災・減災など様々な社会課題解決に貢献するグリーンインフラを多様な主体の連携のもと推進していくことが重要となっている。

こうした考え方を理念にとどめることなく、各流域において具体的な施策として実装していくためには、これまでの取組に加えて、流域における環境目標について関係者間で適切な合意形成を図りつつ、目標達成に向け効果的かつ継続的な取組を推進していくことが不可欠である。

以上の背景を踏まえ、河川管理者に限らず、森林、農地、都市など河川区域外を所管する関係機関や多様な主体と連携し、流域全体で共有可能な目標設定や取組状況の可視化を通じて、流域環境の保全・再生・創出を一層加速させるための方策について検討を行うべく、「河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた取組の実効性向上に関する検討会」を設置するものである。